

服を脱いだマネキン

「袂と布と型」(久坂葉子)より

藤田ヒロシ

《登場人物》

マネキンA

スワコのアトリエにあるマネキン。最古参。近年は積極的に使用されていない。

マネキンB

スワコのアトリエにあるマネキン。製造年はAよりは古い  
が、諏訪子の元に来たのはそれよりも後である。

マネキンC

スワコのアトリエにあるマネキン。最も新しく、スワコのお気に入り  
を着せられている。

タニガワ・スワコ

有名デザイナー。この物語の舞台となるアトリエの主

舞台の奥に様々な布が天井から垂れ下がっている。下手の壁に大きな鏡。中央にはテーブル、椅子。テーブルにはスケッチブック、布、鋏、巻尺、カバンなど散在している。

―前説―

前説者（スワコ）が現れる。

スワコ

改めて、本日はご来場、ありがとうございます。準備が整いましたので、只今より「服を脱いだマネキン」を上演いたします。

スワコ

と、そこでスワコのスマートフォンが震える。

スワコ

失礼しました。マナーモードでも音が気になるものですね。皆さんは大丈夫ですよ？電源を切るか、サイレントモードでお願い致します。

スワコ

と、スマホを操作する。

スワコ

（独り言）あ、もう時間だわ。行かないと。

スワコ

と、慌ててカバンを手にするが、その時スマホをテーブルに置いてしまう。

スワコ

（客席に）それでは、お楽しみください。

スワコ

と、カバンを持って客席側に消える。

スワコ

暗転

スワコ

激しい音楽。

○デザイナー「タニガワ・スワコ」のアトリエ

椅子の背もたれに身体を預けて座っているC（帽子を被っている）  
両端に2体のマネキンAとB。

音楽の音量が急に小さくなり、

マネキンB

着信です。着信。望月さんから着信です。

と、マネキンBが（如何にも人形的に）動き出す。テーブルのスマホを手にしてCの耳に近づける。

そのままの姿勢で電話の相手と話すが、やがて当然に起き上がり、マネキンBからスマホを奪うように取り、大きな身振りで話を続ける。（Bは停止）

呆れた様子で電話を切ると、スマホをテーブルに置き、元の様に座るすわこマネキンC。

続く音楽。

それに合わせマネキンAが動き出す。次にBが。最後にCが。それはダンスのようになっていく。

曲が止まると、その場でマネキンたちも止まる。

マネキンB ボタンがかからないですってー

マネキンC ボタンがかからないですってー

マネキンB それは、望月サンがお太りになったからですわー

マネキンC お太りになったからですわー

マネキンB 私の裁断に限って誤りはございませんものー

マネキンC 誤りはございませんものー

と、目を合わせるCとB。次の瞬間。驚愕の声を上げ、(如何にも人形的に)動き回り、

マネキンB 言ってしまったわー

マネキンC 言ってしまったわー

マネキンB 望月サン、怒っていましたー

マネキンC 怒っていましたー

マネキンB それはそう、当然の反応だわー

マネキンC それはそう、当然のー

と、動きが止まり、

マネキンC なぜ?! 本当の事よ。

マネキンB 人間は嘘を言われても怒るけど、本当を言われても怒るの。  
マネキンC なるほど。

と、動き出すが、すぐに止まり、

マネキンC 何を言われても怒るの？

マネキンB 言い方には気をつけないといけないのよ。言葉と言う明瞭な道具は、缺のごとく切り刻んでしまうものよ。

と、テーブルの上の缺を手にする。

マネキンC 言葉が布を切るの？

マネキンB 心よ。

と、錠を開いて閉じる。

マネキン C  
比喻ね、それ！無関係な事を突然言い出して、会話を混乱させ、人間が好んで使うアレね。

マネキン B  
そう。賢さの誇示に用いるアレ。

マネキン C  
あなた、人間みたい。

マネキン B  
やめてよ。

マネキン C  
人間と長く一緒に居ると、人間的になるのかしら？

マネキン B  
やめなさい。

マネキン C  
怒った？ますます人間みたい。

マネキン B  
やめなさいって！

と、Cを追い回すB（如何にも人形的に）

やがて、じつと止まったままのAにCがぶつかり、その反動でCがBにもぶつかり、3体とも床に倒れる。

マネキン B  
もう！

マネキン A  
（冷静に）困った事になったわ。

マネキン B  
そうよ。壊れたらどうするのよ。きつとお払い箱よ、修理なんてしてもらえないわ。

マネキン C  
それも比喻ね。

マネキン B  
は？

マネキン C  
「お払い箱」 私たちは箱ではないし、運ばれる時も箱には入らない。大抵は緩衝材でぐるぐる巻きに――

マネキン B  
（大きく息を吐く）

マネキン C  
それは何？！私たち呼吸なんて必要ないのに、その深い呼吸の様な物……あなた、比喻以外にも人間の道具を使うの？

マネキン B  
やめてよ。

マネキン C  
人間になりたいのかしら？

マネキン B  
（真剣に）やめなさい。

マネキン C  
怒った？いよいよ人間みたい。

マネキン B  
（語気を強め）やめなさいって！

と、倒れたまま手足をバタつかせてやり合うCとB（如何にも人形的に）

マネキンA

（冷静に）困った事になったわ。

マネキンA

と、2体に気を取られる事無く立ち上がり、

マネキンA

スワコは何処へ？

マネキンB

動きが止まり、

マネキンB

スマホを持たずに出掛けたと言う事は、

マネキンC

散歩。

マネキンB

アイデアが浮かばないなら、

マネキンC

散歩。

マネキンB

息が詰まったなら、

マネキンC

散歩。

マネキンB

散歩ってそんなに偉大で絶大なのかしら？

マネキンA

このままでは、お代を支払っては貰えないかもしれません。

マネキンB

へえ、そうなんだーえ？

マネキンC

なんで、どうして？！スワコは洋服を作った。望月サンはそれを

マネキンC

手にした。なのにどうして「お代を払っては貰えない」の？

マネキンA

と、立ち上がる。

マネキンA

着られない物を「洋服」とは言えないわ。

マネキンC

それは望月サンが太ったからで、自分に非があるのに、それが支

マネキンA

払いを拒む理由になると言うの？

マネキンA

人間の何を見てきたの？人間の言う「正当性」や「正義」なんて

マネキンB

都合でどうにでも変化するものよ。

マネキンB

と、立ち上がり、

マネキンB

あ、なんともないっ！

マネキンC

と、動いて見せる。

マネキンC

（大袈裟に）良かったですわー

マネキンA

（より大袈裟に）何よりー

動きを止め、じっとAとCを見るB。

（負けじと大袈裟に）とっても人間的なお言葉を、どうもありがとう。

と、元々位置に戻りポーズを取る。

それに続くA。Cだけが動かないまま。

マネキンB どうしたの？

マネキンC 私たち、もしかして、いつの間にか、知らない間に……。

マネキンB どうしーあ、止めて！言わないでその先はー

マネキンC とつても人間的になってるんじゃないのかな？

マネキンB 言わないで！って言ったよねー

マネキンC この際、それを認めて、それを利用しましょうよ。

マネキンB は？

マネキンC スワコのフリをして望月サンに電話をかけるのよ。

マネキンB さっき倒れて壊れたのかな？

マネキンC （Bを睨む）

マネキンA スワコのフリして、如何にも人間的に「上手い事」「良い感じに」

「やんわりと」事を納めるのね。

マネキンC そう！そうしてお代を頂けるようにしましょうよ。

マネキンB 人間であるスワコが「上手い事」「良い感じに」「やんわりと」出

来なかったのに、私たちに「上手い事」「良い感じに」「やんわり

と」出来る？第一、私たちが一番知っている人間っていうのがスワコなのよ。

マネキンC ……。

マネキンB そうでしょう。人間の事は人間に任せておきましょうよ。

マネキンA それでどうなるの？

マネキンB は？

マネキンA 人間世界の、人間同士の揉め事。その解決を人間に任せておいて、

これまではどうなった？

マネキンB ……。

マネキン A

そうよ。解決は先送り、ジリジリと確実に自体は悪化して行く。スワコは、ああ言う人だから、ライセンス契約とか委託生産とか異業種コラボレーションとかやらないし、客を選ぶし、洋服作る才能あっても、それをお金にする才能がないのよね。このままならスワコは廃業だわ。

マネキン B

私たち、お払い箱ね。

マネキン A

そうよ。

マネキン C

私は新しいから、次が見つかる、と思う。

マネキン B

あんたねえ。

マネキン A

どうかしら？安い新品がいくらでもあるからね。

マネキン C

使い捨て？！

マネキン B

作りは丈夫なのにねえ、勿体ない。

マネキン C

（ポツリと）サステイナブルは？SDG'sは？

マネキン A

これは人間世界の、人間同士の揉め事ではないわ。自分事よ。やりましょう！

B・C

やりましょう！

マネキン C

（手を挙げ）スワコ役は誰がやりますか？

A・B

それは……

と、互いを見合う。

マネキン B

スワコと一番長いあなたが適任でしょう。

マネキン A

人間との付き合いという意味ではあなたの方が適任でしょう。

マネキン B

（首を振り）スワコを知っている事が重要ですから、あなたが適任。

マネキン A

（首を振り）望月サン、つまりは人間を知っている事が重要ですから、あなたが適任。

マネキン B

あなたが。

マネキン A

あなたが。

マネキン C

すごい！相手に敬意を示している様で、単に面倒事を押し付けている。または、相手に比べ自分はまだまだキャリアが浅くてという体をなしての若さアピール。すごい！まんま人間のやりとりですよ！完璧！どちらがやっても問題ないですよ。私はまだまだ、

割って入る事なんて出来ません。流石はセンパイたちです！

一瞬の静寂。

マネキン A　　なかなか、どうして。

マネキン B　　やるじゃないの。

マネキン A　　さて、どうする？

マネキン B　　じゃんけん、とか。

A・C　　（歓喜に近い声で）人間的！

マネキン C　　くじ引きとか、とか。

A・B　　（歓喜に近い声で）人間的！

マネキン A　　製造月が一番早い方。

マネキン C　　ニングーと、どういうこと？。

マネキン B　　仮に11月（とAを指し）5月（と自分を指す）としたら私ってことね。年は関係なく。

マネキン A　　（頷き）年は関係なく。さ、何月？

マネキン B　　…。

マネキン A　　ちよつと、これは先言うも後も言うも関係ないわよ。

マネキン B　　違うの。知らないの。

マネキン A　　そんなことつてある？

マネキン C　　私も知らない。

マネキン B　　あなたは自分の製造年月日知っているの？

マネキン A　　あ。

マネキン B　　ほら。

マネキン A　　なら…：…何処かに書いてあるんじゃないかしら？プレートとか刻印とか。お互いに見合っ探しましょう。

と、マネキンBの足を掴んで、足裏を見ようとする。

マネキン A　　こういうところにあったりするのよ。

マネキン B　　ちよつと、危ない！自分のから見なさいよ！

マネキン A　　そうね。

と、椅子に座り足裏を見る。

マネキンC どう？あった？

マネキンA (首を振る)

マネキンC 人間って、どうして誕生年月日を覚えているのかしら？

マネキンA 毎年その日に祝ってもらうから？

マネキンB 事あるごとに書類に書くから？

マネキンC それなら私たちが製造年月日知らないのも当然ね。

A・B あ。

マネキンA 嗚呼、なんだか面倒臭くなって来たわ。スワコのフリして望月サ

ンに電話しても「上手い事」「良い感じに」「やんわりと」出来る保証もないわけだし、やめましようか。よし、やめましよう。

B・C (じっとAを見る)

マネキンA 何よ。

B・C (歓喜の声で) 人間的！！

マネキンC 今日イチでしたね。

マネキンB それ出来るって、ヤバイよ、ヤバイ。

マネキンC それどっちの「やばい」ですか？

マネキンB カタナカ。

マネキンC 「カタカナ」？

マネキンB ポジティブな「やばい」とネガティブな「ヤバイ」の違いっていうのは、その「固さ」によって分かれ—

マネキンA わかった。私がスワコをやるわ。

マネキンB その話、後でいい？今「やばい」と「ヤバイ」の違いについて話しているからさ。

マネキンA そっち？！

マネキンB どっち？「やばい」？「ヤバイ」？

マネキンC (Bに)「やばい」の話はまたと言う事で。

マネキンB どっち？「やばい」？「ヤバイ」？

マネキンC どっちでもいい！(Aを見て)「やる」って言っているんですら、

この機会を逃さないで！

マネキン B ……わかった。(Aに)それではお願いします。

マネキン C お願いします。

マネキン A (頷いて)それじゃ、(Cに)服脱いで。

と、自分の服を脱ぎ始める。

マネキン C え、え、何で？

マネキン A それスワコの私物でしょ？彼女を演じるなら、彼女の服を着る。当たり前的事よ。

マネキン C 電話ですよ。望月サンには見えませんー

マネキン A だから、何？見えないから、服は関係ない？そんな事本気で思っていないでしょうね？思っているなら、今すぐ辞めた方がいいわ。

マネキン C ……「辞める」？何を？

マネキン A わかっていないようだから、教えてあげる。スワコになって電話をするって言う事は、スワコの声で、スワコの言葉を話すって事。これはわかるわよね？

マネキン C はい。

マネキン A (Bを見る)

マネキン B (私も？！と言った感じで)はい。

マネキン A その声を出す為には、その身体……つまり、スワコの身体にならないと出ない。その言葉を出す為には、その精神……つまり？

マネキン B (肘でCをつつく)

マネキン C スワコのセイシンにー

マネキン A そう！私丸ごとがスワコになることで、初めて「タニガワ・スワコです」にリアルが宿るの。だから……？

マネキン C 「だから」？

マネキン A その為に？

マネキン C 「その為に」？

マネキン B (手を挙げ)はい！

マネキン A (手で指し)言っでござんなさい。

マネキン B  
 スワコの動きと体温の記録がある服を纏う必要がある。と言う事  
 だと思えます！

マネキン A  
 そう！それが、私という存在が、スワコという存在、他者になる  
 と言う事なの。

B・C  
 はい。

マネキン A  
 これは初歩の初歩。「いろはの」の「い」、それも一画目よ。  
 はい。

B・C  
 Bが肘でCをつつくと、Cは慌てて服を脱ぎ、Aと交換する。

マネキン B  
 (ぼつりと) 誰かになりたがるって……至極人間的よね。

着替えると、帽子は手に持ったまま部屋の中を動き回るA。袂や巻  
 尺を触ったり、スケッチブックを広げたり、BとCの纏っている服  
 をチェックしたり、次第に「タニガワ・スワコ」として動き始める。

BとCは止まっている。

やがて、部屋の真ん中に立ち、周囲を見渡し、深呼吸を一つして、  
 帽子を被り、

マネキン A  
 どうも、デザイナーのタニガワ・スワコでございます。

激しい音楽が鳴る。

音楽に合わせてAが動き出す。次にBが。最後にCが。それはダンス  
 のようになっていく。

音楽が急に小さくなると、

マネキン B  
 発信中です。発信。望月サンに発信中です。

と、Bが(如何にも人形的に)動きで、テーブルのスマホを手にし、  
 Aに差し向ける。

応答を待つA。やがて望月サン(Bが演じる)が電話に出る。

マネキン B  
 『はい、望月です』

マネキン A  
 こんにちは。タニガワ・スワコー

マネキン B  
 『はい。はい。アシスタントさんね』

マネキン A  
 え、あー

マネキン B  
 『慌てて携帯を忘れて来たっておっしゃってましたよ。何も、そ  
 んなに慌てる事もないのに、ねえ。ちょっとお待ちくださいね』

マネキン A え、あ、はい？

A 同様に B も C も驚き、慌てる。

マネキン C どういうこと？

マネキン A わからない。

マネキン B (首を振る)

と、マネキン B が姿勢を直し、

マネキン B 『はい。スワコです』

一同驚愕。誰も声を発しない。

マネキン B 『もしもし』

A にスマホを近づける B。後ずさりする A。

マネキン B 『もしもし』

A の背中を抑える C。

マネキン C (話して！)

マネキン B 『もしもし』

マネキン A そちらに、いたのね。

マネキン B 『嗚呼……そうよ。意外？』

マネキン A 意外。

マネキン B 『それなら、私にではなく望月サンにかけてきた、と言うことね』

マネキン A あ。

マネキン B 『いいわ。その事は戻ってから話しましょう。今は望月サンと打合せをしていますから。では、戻ってから』

と、電話が切れる。(Bの身体が緩む)

静寂。

マネキン A スワコが、いた！

それを期にそれぞれが勝手に今の状況を整理しようと声を上げる。  
(この時、帽子を取る A)

マネキン A ストップ！

その声で、声も動きも止まる。

マネキン A 私たち、なんでこんなに慌てているの？

マネキンC だって、それは――

マネキンB だって、そうよ――

マネキンC あれ？

マネキンB なんだ？

マネキンA スワコが望月サンのところに居たから？スワコのフリをしようとした事がバレたから？

マネキンB 確かに誤算ではあったけれど、

マネキンA ここまで動揺する事ではない。

マネキンC 驚きはしたわね。

マネキンA (頷き)でも、ここまで動揺する事ではない。そもそも「動揺」っていうのは心を持っている人間がするもの。私たちには無縁であるはず。

マネキンC 何も恐れる事はないわ。

マネキンA そう言う事ね。

マネキンB どつしりと構えましょう。

マネキンA そう言う事よ。

それぞれにその場でポーズを取ってみる。

マネキンA 私たちってマネキン人形よね。

マネキンB 今更、その話をするの？

マネキンA こうやって人間の世界に、人間の服を纏って立っていると、時々、ほんの一瞬ではあるけど、マネキン人形ではない気がしない？

マネキンB 人間になった気になるって事？あなた正気？私たちはね、どっからどう見ても、作られてから捨てられるまで――

マネキンA わかっているわよ。

マネキンB なら気味悪い事言わないでよ。

静寂

マネキンC あの。

A・B なに？！

マネキンC (一瞬たじろぐが)スワコ、何で望月サンのところに行ったので

しよう？

マネキン B 「打合せ」って言っていたでしょう。

マネキン C 何のですか？

マネキン B そうよね、注文の洋服は出来たのだから、「打合せ」なんてもの  
必要ないわ。

と、動き出し、

マネキン B あ、嗚呼、人間的なアレね。

マネキン C アレ？

マネキン B (頷いて) 仕事関係の人間と会う時は、お茶を飲むでも、食事も  
するでも、お酒の飲むでも、取りあえず「打合せ」って言ってお  
けば間違いはない。

マネキン C 「間違いはない」って？

マネキン B 収まりが良いって事よ。

マネキン C それなら望月サンとお茶をしに行ったのね。

マネキン A そんなわけないでしょう。

マネキン C 間違えた？！

マネキン A あの電話の後よ。流星に言い過ぎたと思ったのでしょね。

マネキン B 後悔ね。それも人間的ね。

マネキン A 電話では済ませられないと、直接出向いて、まあ、手ぶらって事  
は無いでしょうから、手土産にケーキでも買ってー

マネキン C 結果、お茶だ。間違ってる！

マネキン B 違う。「打合せ」よ。

と、ケーキを食べてお茶を飲む仕草を見せる。

マネキン A (Bをじつと見る)

マネキン B 何よ。食べられないけど、食べ方くらいは知っているわよ。

マネキン A (興奮気味に) 続けて。

マネキン B は？

マネキン A 続けて！(Cに) あんたも。相手して。望月サン。

と、Bの前にCを立たせ、手を叩く。

マネキン A  
はい。

BとCがケーキを食べ、お茶を飲む仕草を見せる。

マネキン A  
会話は？会話！するでしょ会話。

マネキン B  
黙って食べる人もいる。

マネキン C  
食事は静かに。黙食

マネキン B  
パンデミックに関係なくね。

マネキン A  
(ポツリと)なるほどね。

と、ゆっくり部屋を回り、

マネキン A  
一理あるわね。でもね、この場合はするのよ、会話。だって、問

題が生じたデザイナーと顧客が向かい合って黙食？怖いじゃない。耐えられないじゃない。だから、声出すのよ。会話するのよ。

と、BとCを見て、手を叩く。

かしまった会話の寸劇を始めるBとC。

マネキン B  
『お口に合えばいいんですけど』

マネキン C  
『とってもおいしいですわ。流石はスワコさん、一流を知ってらっしゃるわ。何処のケーキかしら？』

マネキン A  
『駅前の、先月に出来たパテスリーをご存知ですか？』

マネキン C  
『嗚呼、あそこですか。気にはなっていたんですけど、主人は甘い物一切食べないですし、こういうものは一人で食べても、ねえ。ですから、よかった。スワコさんが来てくれて。ありがたうございます。本当においしいは。是非買いに行かなきゃーやだ、これではまたウエストが……』

マネキン B  
『御心配なさらしないで下さい。洋服は着て頂いて、その姿を人に見て頂いてこそ。望月さんに着て頂けるように、しっかりとお直しをさせていただきます』

マネキン C  
『あら、まあ、本当に！うれしー』

マネキン A  
はい、そこ！ストップ！

と、手を叩く。

B・C  
終わった。

と、緊張から解放される。

マネキン A  
そうよ。これよ。

B・C どれ？

マネキンA 今、自分で言ったじゃない！それよ。

マネキンB (Cに) 私、何言った？

マネキンC (Bに) 「しつかりとお直しをさせて頂きます」

マネキンB そんな事言った？

マネキンC 言った。

マネキンA 「出す」ではなく、「出ちゃう」無意識の意識。それこそがリアルよ！

マネキンB ええ、スワコが？！直しに行ったの？！ない、ない。

マネキンA 無い？！

と、歩きまわる。

マネキンC どうしたの？

マネキンA やっぱりだわ。何か足りないと感じていたの。

マネキンC 何が？

マネキンA 無いのよ、裁縫道具が。ショーなんか持って行くやつが。

B・C 嗚呼！

マネキンC スワコがいなくて、あのカバンも無いのはごく自然だから、気がつかなかった。

マネキンA (頷き) 無礼を詫びるだけなら、裁縫道具は要らない。むしろそれを持って行った時点で、足元を見られかねない。

マネキンC (足元を見て) 比喻。

マネキンB 「そんなもの私の預かり知らぬ事」って感じで、とっても不快な様子だったのにさ。なんでまた。

マネキンA わかっているのよ。

マネキンC このままでは廃業にまっしぐらって事を？

マネキンA (頷いて) つまりはタニガワ・スワコとは一体何者かって事をわかっているのよ。

マネキンC 比喻……じゃない？！

マネキンA スワコにとって洋服が着られないまま放置される事は、客の我儘

以上に不快なのよ。耐えられない屈辱は、採寸や裁断、縫製を「間違えた」と思われる事ではなく、自分が生み出した洋服が「不要物」として放置される事なのよ。

BとCの纏っている服を見て、自身の服を見て、帽子を被り鏡の前に立ち、

マネキン A

タニガワ・スワコ。朝起きて、コーヒーとトーストを食べる時もSNSをチェックする時も、裁断する時は勿論、仮縫の時も、お客に会う時も、インタビュアーの時も。芸術家として、デザイナーとして、流石ね、自身が何者であるのかを理解し、その上で、いつなん時もポーズを取っている。それは私のとは違い、自由の中で、自分の意志で選んだポーズで、窮屈さを感じることなく、そうあり続ける。デザイナー・タニガワ・スワコ。

鏡の前から離れ、帽子を取り、

マネキン A

あなたは見せつける。可憐で、煌びやかで、妖艶で、爽快で、凛々しい洋服の数々を、広い世界に存在する美しさの数々を……あなたと居るから私は夢見る事を知ってしまった。私はスワコにはなれない、そんな事は言うまでもない。それでも、あなた程は有名ではなくても、あなた程は人から愛されなくても、あなた程は人を笑顔に出来なくても、明瞭に「私は」と言ってもらえる存在に、私は成りたいよ。そう願ってしまう。それは、タニガワ・スワコ、あなたのせいよ。あなたが私を変えてしまった。

顔を見合わせるBとC。

マネキン B

はい。

と、手を叩き、

マネキン B

ちよっと、何よ、突然の独り語りなんて、そう言うのはズルくないですか？

マネキン C

ズルい？

マネキン B

ズルいでしょう。あんたはこれで良いわけ？

マネキン C

良いも、悪いも、それぞれだしさ。

マネキン B

はい、出た。人間的。でも笑えない。それって相手をちっとも尊重していないからね。「それぞれだし、いいんじゃない」それって相手の話を聞いてなくても返せるんだからね。ただの無関心。他者に無関心な存在は、他者からも無関心な存在だからね。(Aに)あなたも違うのよ。独り語りで「やってる感」出して、悦に入って、「はい、言いたいことは言いました、お終いです」は違うのよ。

マネキンC (Bに) 語りたいことあるなら、語ればいいよ。

マネキンB 誰が？

マネキンC あなたが。

マネキンB そう言う事言っていないでしょっ！

マネキンC そう言う事言っているよ。聞いてほしい事があるんだって、私にはそう聞こえる。だから聞くよって。聞くだけで、何にも返せないかも、それこそ「それぞれだし、いいんじゃない？」ってつい言ってしまうかも、それでも、聞くよって、そこは出来るよって。私は言っている。

マネキンB ……。

マネキンC (Aに) さっきの事も聞いたよ。聞いていた私が居る限り、独りではなかったよ。

マネキンA ……ありがとう。

と、ハグをしようとするAとCだが、ぎこちなく上手くは行かない。

しばらく黙って見ていたBだが、

マネキンB ああ、もう！！

と、補助をしてハグさせる。

マネキンA どうも。

マネキンB 人間の真似事、どんな気持ち？

マネキンA 気持ち……？

マネキンB 体温も鼓動もないのに、そうやって何かが通うわけ？

マネキンC 新鮮ではある。

マネキンB 「新鮮」か……案外それなのかもね。

マネキンC どれ？

マネキンB 「新鮮」ってだけの事を「好き」とか「大切」とか「上質」って思い違えて、馬鹿な選択しちゃうのかも知れないね。

マネキンC 誰が馬鹿？

マネキンB それで一生を想い違えたままでいられたなら、それを「お幸せ」と呼ぶのね。

マネキンA 人間の話？それとも、私の？

マネキン B あなた人間になりたいのでしょ？同じ話だよね。

マネキン A ……。

マネキン B 気持ち悪い話だわ。

マネキン A (ハグしたままBを睨む)

マネキン C (唐突に) ああ、コレもういいよ、戻して！

マネキン B (大きく息を吐く)

**Bの補助を再び受けて、離れるAとC。**

マネキン C (大袈裟さに) ハグって、見た目以上に大仕事ね。

マネキン B それ私の台詞だからー

マネキン A 私は「自由」って言うものを知りたいの。「選ぶ」って言う事を知りたいの。人間になんかになりたいわけではないけれど、人間はそれを知っているし、持っている一番身近な存在だから。

マネキン B どうだろうね。私たちの一番知っている人間はスワロだけど、彼女が人間の標準ってわけではないでしょう。案外、私たちと変らないものかもよ。

マネキン C 人間か、人形か。

マネキン B その区別を明瞭に出来る？

マネキン A 区別なんて関係ないの。私がどうかなの。

マネキン B (嘔き出して) まるで人間の子供の言い分ね。

マネキン A 作られた時のまま、年は取れないもの。

マネキン B そうよ！あなたも、私もマネキン人形。決められたポーズ、求められる型で、はみ出さず、ただそこにある。

マネキン A 違うわ！

マネキン B 何が？どう？言ってみなさいよ！

マネキン C え、急に……ええ、なに？

マネキン B 「私は違う」「私は別物」って、特別な存在とでも思っているの？  
マネキン A 違うわ。

**と、2体が互いに詰め寄る。**

マネキン B だから！何が？どう？言ってみなさいよ！

マネキン C

争いはダメよ。最も愚か。人間的にも程がある！ダメ絶対！

と、勢いよく2体の間に入り、衝突する。

衝撃で3体とも床に倒れる。

マネキン B

もう！あんたは学習しないの？

マネキン C

人間的ね。

マネキン B

言っている場合？

マネキン A

違うわ。決められたポーズ、求められる型で、はみ出さず、ただそこにある。それには従えない。私は出来そこないなのよ。

マネキン B

あなた、粗悪品なの？それなら、今ので壊れたんじゃないの？

マネキン A

粗悪品だから、何が「正しい」型か知らないのよ。壊れているかもわからないわ。

マネキン C

私は壊れていない。

マネキン B

(低く重く) 良かったですねー

マネキン C

(無理して) どうもありがとう。

と、見合い、倒れたまま手足をバタつかせてやり合うCとB(如何にも人形的に)

マネキン A

(構うことなく) 出来なくて、知らなくて、話せなくて、歩けなくて、食べられなくて、何者でもなくて、だから何者にもなれて、可能性しかない。

と、起き上がり、(BとCの動きが止まる)

マネキン A

そんなものは至極人間的な幻想だと、知ってはいるわ。でも、諦められないの。

と、Cを持ちあげる様に起こし、

マネキン A

自由で、平等で、世界はひとつ…そんなものは至極人間的な戯言だと、知ってはいるわ。でも、諦められないの。

と、Bに手を差し出し、

マネキン A

恵まれる者と奪われる者。教えを受ける者と見放される者。それは運命…そんなものは至極人間的な身勝手だと、知ってはいるわ。だから、そんな物差して「私」を測らせない！

と、自らBの手を握り、起こし、

マネキン A

纏わされた正しさ、美しさ、それらが窮屈なら、そんなものは缺

で切り刻んで、まつさらになつて、自らの手で、不器用で、歪で、美しい型を作り出してみればいい。出来るかどうか、問題はそこじゃない。

激しい音楽が鳴る。

マネキン A

もうマネキン人形ではないわ。もちろん人間なんかでもない。

と、着ていた服を脱ぎ捨て、垂れ下がっていた布を引っ張り下ろす。

Aの行動に続くBとC。3体のマネキンが自由に自らの服を作り始める。

暗転

音楽が止むと、再び、

○デザイナー「タニガワ・スワコ」のアトリエ

様々な布に絡まる様にして、3体のマネキン人形がいる。ゆっくりと、でも確実に動きながら、

マネキン A

いつの日か、

マネキン C

私の美しい型を作り出せた時には、

マネキン B

真実の言葉として言ってみせるわ、

A・B・C

「それぞれだし、いいんじゃない」

暗転

激しい音楽が鳴る。

—終演挨拶—

照明がつくと、キャスト一同礼。

顔を挙げると、ダンス。しなやかに。

踊り終わると、息を大きく切らし、それに驚きつつ、互いに笑顔を見せ、舞台から消える。

FIN

原作『鉄と布と型』久坂葉子（1953年）

無断での転用・転載、上演禁止